

認定NPO法人

Hope and Faith International

ホープ アンド フェイス インターナショナル

代表者 福井 誠

日本所在地

住所：〒158-0094

東京都世田谷区玉川4-10-20

TEL：03-3707-6159

担当者：佐々木 美佳子

ウェブサイト <http://internationalhf.net/>



団体目的

貧困など社会的援護を必要とする人々(主として子ども)が、新しい希望と信頼をもって支え合う家族やコミュニティーを、自立的に実現させていくように、教育的・福祉的援助を行います。

設立背景

1998年3月、フィリピン・セブ島の貧困地域に古着を送る小さな働きがきっかけでした。2001年就学支援の相談を受け、友人や知人と共に奨学金を提供する働きを開始、2002年現地にNGOを設立、補習授業や健康クリニックなどを行う子どものトータルな育成を目的とするセンター活動へと発展しました。活動開始から約20年、当初支援した子どもたちは、大学を卒業し、学校の教師、エンジニア、ソーシャルワーカーなど、多様な分野で活躍し貧困地域から転居、新しい家庭を築いています。又、彼らによって、私たち外国人には入り込めない貧困地域の再貧困層への働き掛けも行われるようになりました。2018年4月より持続可能な支援を目指して、開発援助を重視、障がい児の母親が子どもを巻き込んで行う縫製内職の生活自立活動を支援しています。

フィリピン事業地

セブ島、マンドラウエ市、カンビノコット村

事業概要

マンドラウエ市(都市部)

MAICA(健常児)8名MHCP(障がい児)18名の就学生活支援、センター活動の提供。内容：補習授業、健康診断、歯科検診、社会見学、学用品購入、マナー教室、グループワーク、リーダーシップトレーニングワークキャンプなど。障がい児の母親たちが子どもと一緒にできる内職の仕事(ミシンを使い雑巾を縫う)を草の根的に始めており、その活動の支援を2018年4月より開始しました。年1度HFIスタディ・ツアーを行っています。

カンビノコット村(山間部)

CHFISC(山間部)20名の就学生活支援、センター活動の提供、内容：補習授業、社会見学、学用品購入、マナー教室、グループワーク、ワークキャンプなど。都市部に流出する地方の貧困者層の教育の充実を目的として、カンビノコットでの学習支援センターの建設と運営に取り組んでいます。HFIスタディ・ツアーを同様に行っています。



スタディツアー2 カンビノコットで折り紙の説明をし文化交流をしているところ



団体構成員

日本事務所：有給非専従2名、無給専従1名、
無給非専従2名

カウンターパート：無給専従4名

収支実績

2022年7月～2023年6月

収入：7,260,914円

支出：7,853,250円

事業分野



コミュニティ



産業



人材



生活



金融



救援



地球環境



平和・政治



人権全般



その他

(障がい児、者
就学生活支援)

企業、大学、行政等との連携実績

連携年月	連携先	内 容
2023年7月～ 2024年6月 (1年間)	三菱UFJ国際財団	日比青年交流スタディツアー フィリピンセブ島
2021年4月～ 2024年3月 (3年間)	アジア生協総合研究所	ヌワコット郡ビドール市第七区で の、養山羊による就労支援活動
2022年4月～ 2023年3月 (1年間)	公益信託 今井記念海外 協力基金	ネパール・ヌワコット郡・ビドール 市第七区の地域住民に必要とさ れる医療機器を整備するためのプ ロジェクト
2022年4月～ 2023年3月	ウェスレー財団	日本人青年の社会貢献活動と国際理 解を深め、次世代リーダーを育成す る事業
2021年1月 2021年度	かめのり財団	第15回かめのり賞 草の根大賞

活動への参加方法

- 会員制度
- 会員以外の支援者制度(ドナー、サポーター等)
- ボランティア
- 報告会、学習会
- スタディーツアー

※詳細は団体へお問い合わせ下さい

活動風景



1 ミシンプロジェクト 障がい児(者)の為のデイクアセン
ターの働きをしています 2 スタディーツアー 2023年7月
に日本人の青年がセンター活動を訪問しました 3 食育
普段子どもたちがあまり口にしない野菜や果物をおやつとて
提供しています 4 健康相談 年に1度健康診断があり、
医師に相談しています 5 補習 支援者へ感謝の手紙を
書いて、年上の子どもが書き方のお手伝いをしています



認定NPO法人

ホープ・インターナショナル開発機構

代表者 ジェフリー・ベア

日本所在地

住所：〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄

1-16-2 神谷ビル2F

TEL：052-204-0530

担当者：木下 香奈子

ウェブサイト www.hope.or.jp

その他SNS等 <https://www.facebook.com/HOPEInternationalJapan>

<https://www.instagram.com/hopejapan/>



団体目的

開発途上国に住む貧しい人々に対しての自立支援活動を通じて生活状況の改善を行っている。同時に、先進国に住む人々に対して国際開発に関する理解を促進し、世界の貧困をなくすための行動を推進する。

設立背景

特定非営利活動法人ホープ・インターナショナル開発機構は、2000年に起きたインド大地震の国際災害緊急支援をきっかけに設立され、2004年愛知県により特定非営利活動法人としての活動を承認された。発展途上国の人々を支援する国際協力団体として、インド、エチオピアでのコミュニティ開発支援事業、フィリピンでの教育支援事業、カンボジアでの健康・栄養管理促進事業、エチオピアでの水供給事業、大災害緊急支援事業などの国際開発事業を展開している。

フィリピン事業地

ミンダナオ島ダバオ市

事業概要

当団体は、2003年からフィリピンで貧困状態にある家族やコミュニティ、主に最貧状態にある先住民族の自立支援に力を入れた。しかし先住民族が直面している問題は、貧困ではなく、社会からの孤立や「文化消滅の危機」など多岐に渡る。民族の若者が独自の文化への理解を深め、伝統を守っていくための知識と技能を身に付けることができるような高等教育を受けることで、力をつけた若者たちは現代社会の中で学んだことを生かし、問題の解決に取り組み、未来に向かってコミュニティを率いていける。

このような次世代を担う若者の育成を目的として設立された「パムランセンター」は、当団体も2010年から支援しており、フィリピンにおける重要なプロジェクトとなっている。パムランセンターは、「先住民族の若者たちに、有意義な費用効果の高い教育を」という先住民族リーダーたちからの要望を受けて、いままでに類を見ない高等教育機関として2006年にミンダナオ島のダバオ市に設立された。在学中の4年間は、人類学、社会的企業、持続性のある農業技術、初等教育などの専門科目を学び、各コースの学位を取得すると同時に、独自の言語や技術などの伝統文化を深く理解し継承していくことを求められている。卒業後は、パムランで学んだことを生かし2年間の社会貢献活動を行い、コミュニティに戻り教師や開発プロジェクトリーダーとして働いたり、起業をして地元のために尽くしている。



パムランの卒業式

団体構成員

日本事務所：有給専従5名、有給非専従2名、無給専従1名、無給非専従2名

フィリピン事務所(カウンターパート)：有給専従20名、有給非専従5名、無給専従3名、無給非専従3名

収支実績

2022年10月～2023年9月

収入:100,504,874円 支出:102,936,232円

事業分野



コミュニティ



産業



人材



生活



金融



救援



地球環境



平和・政治



人権全般



その他

企業、大学、行政等との連携実績

連携年月	連携先	内 容
2013年12月	ジャパン・プラットフォーム	台風ハイエン緊急支援 (10,461,323円)
2014年2月	ジャパン・プラットフォーム	台風ハイエン緊急支援 (25,094,041円)
2017年10月	JAMMIN	パムラーン支援用 寄付金付T シャツ等販売の寄付(186,096円)
現在	各企業	毎年10名の奨学金支援

活動への参加方法

- 会員制度
- 会員以外の支援者制度(ドナー、サポーター等)
- ボランティア
- インターン
- 報告会、学習会
- スタディーツアー
- バザー(フェアトレード商品購入含む)

※詳細は団体へお問い合わせ下さい



1 インターン先で子どもたちに勉強を教えるパムラーンの学生

2 出身部族の民族衣装を身に纏ったパムラーンの学生たち

活動風景



特定非営利活動法人 ユニカセ・ジャパン

代表者 中村 八千代

日本所在地

住所：〒123-0873 東京都足立区扇2-25-1

扇インペリアルコート1103

TEL：090-8430-7703

担当者：中村 八千代

フィリピン所在地

住所：Makati City, Metro Manila

TEL：0917-759-2710

担当者：Maribeth B. MANALUS（英・タガログ）

ウェブサイト <http://www.uniquease.net/>

その他SNS等 <https://www.facebook.com/UNIQUEASE.Restaurant>



団体目的

ユニカセ・ジャパンは、貧困層出身の青少年たちが仕事に就き、職を通して生活環境を改善することを目指すと共に、彼ら自身がマネージメントを行えるようになるための青少年育成事業やライブビジョン・ワークショップを含む研修事業を行っている。虐待や人身売買などの様々な危険にさらされた経験者や元ストリートチルドレン、ゴミ山近辺で生まれ育った経験のある青少年らの自立を実現させるため、日本や各国の青少年との交流を通してお互いに友情と理解の促進をはかり、学び合うことを目的とする国際的な団体である。

設立背景

2010年にフィリピンで創立したソーシャルビジネス・ユニカセ・コーポレーションが実施してきた研修を強化するため、2013年に青少年育成事業を主たる目的としNPO法人ユニカセ・ジャパンを設立した。フィリピンと日本で定期的に研修事業や講演会・イベントを開催し、青少年の社会復帰と自立を促進すると共に、日本の学生をインターンとして受け入れている。マニラ首都圏で運営していたユニカセ・レストランはコロナ禍の影響で閉店したが、貧困から脱却したフィリピン人スタッフたちが次世代教育を行い、実体験から学ぶ実践的なトレーニングを提供する一方で、日本からのお客様には社会課題について説明し、異文化理解を深める意見交換なども行っている。

フィリピン事業地

1. マニラ首都圏マカティ市、ケソン市
2. ラグナ州ビニャン
3. リサール州アンティポロ

事業概要

1. 研修・イベント：現場での“生きた教育”を通して、自ら気づき、考えることの大切さを学ぶ。様々な問題に目を向け、事業計画を作成した上で、問題解決案の実行に移す能力を培う。“青少年育成事業”で学んだ成果を国際交流の場で紹介する。
2. 広報活動：日本やフィリピンの大学等の教育機関における講演会を毎年開催すると共に、テレビ・新聞などのメディアでも多数紹介していただいている。
3. フェアトレード事業：ユニカセのパートナー団体であるNGOや市民団体、青年海外協力隊の技術提供により生産された商品や、ユニカセ・フィリピンスタッフたちによる手作り菓子・ジンジャーティーやアクセサリを紹介・販売している。
4. 奨学金制度：ユニカセ・フィリピンスタッフらが、十分な教育を受けられるよう学校に通う機会を設け、一人一人に合った教育支援を実施している（就業しながら、学校に通えるための資金的援助やシフト調整）。
5. インターンシップ：グローバル人材の育成を目的とし、日本の高校生や大学生を対象に、短期研修ツアーの実施や、長期インターンシップ制度を設けている。



2023年11月 ユニカセ・ジャパン主催 第8回 アジアカンファレンス2023

団体構成員

日本事務所：有給専従1名、有給非専従1名、
無給非専従7名
フィリピン事務所：有給専従1名、有給非専従6名

収支実績

2022年4月1日～2023年3月31日

収入：5,399,376円

支出：7,461,824円

事業分野



コミュニティ



産業



人材



生活



金融



救援



地球環境



平和・政治



人権全般



その他

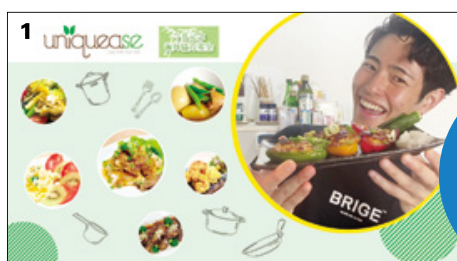
企業、大学、行政等との連携実績

連携年月	連携先	内 容
2015年2月	公益財団法人 SOMPO 福祉財団	助成金(人材育成・研修費用)
2017年～ 2020年	公益財団法人 日本国際協力財団(JICF)	助成金(人材育成・研修費用)
2022年～ 2023年	公益信託 今井記念海外協力基金	助成金(人材育成・研修費用)
2023年	明治大学/獨協大学/比治山大学等	講演会実施
2023年	第一学院高等学校/順天高等学校/クラーク記念国際高等学校等	講演会実施

活動への参加方法

- 会員制度
- 会員以外の支援者制度(ドナー、サポーター等)
- ボランティア
- インターン
- シンポジウム
- セミナー
- 報告会、学習会
- ワークキャンプ
- スタディーツアー
- バザー(フェアトレード商品購入含む)
- その他(高校や大学での講演)

※詳細は団体へお問い合わせ下さい



活動風景

1 2022年4月～ ユニカセ・ジャパン(SNS食育事業：Healthy Daily Oishi Cooking with Kuya Fumiya) **2** ユニカセ・フィリピンスタッフ(トレーナー：Beth & Grace) **3** 2023年8月 ユニカセ・フィリピン(ラグナ州での対面式食育事業) **4** 2023年8月 ユニカセ主催 スピーチコンテスト(ユニカセ・フィリピンスタッフ&訓練生) **5** 2023年8月 ユニカセ・ジャパン(学生スタッフ勉強会)

